

## 報 告

## 日本病院会全国図書研究会参加記

藤田 智奈美

日 時：2002年10月11日～12日

場 所：(社)日本病院会会議室

テーマ：病院の資質向上に貢献しよう

初めて全国図書研究会に参加させていただき、二日間にわたる熱のこもった講演に圧倒されてしまいましたが、いくつかの講演において、司書は情報の発信と受信に敏感であることが重要だと思いました。

「長期経営計画と情報収集」では、病院経営の改革には、経営に関する情報、職員の能力向上に必要な情報、他部署の情報など、まずは情報収集が必要になると話されました。

図書室が病院の資質向上に貢献するためには、情報収集の知識がより多く必要になります。「情報活用支援のための基礎講座 図書館員のためのインターネット」では、電子資料の種類や提供方式について、Web ページの種類と特徴、仕組みについて説明され、また有用なサイトの紹介もされました。

「PubMed 簡単検索」では、PubMed 検索の仕方を初歩から説明され、PubMed の歴史と現在の状況等についても話されました。

「EBN への第一歩 ナースと伴走するライブラリアン」では、的確な情報の提供と指導のためには、利用者のニーズを把握するインタビュー能力と、有効な情報源の整理、データベースの熟知、利用者への図書室紹介などが必要になり、司書の仕事は多岐にわたるということを講演されました。

このような情報収集能力を図書室が維持して

いくことも重要です。引き継ぎなどに利用する業務マニュアルですが、これさえあればよいわけではないことを「図書室業務マニュアル作成」で講演されました。

業務マニュアルの内容と意義を説明された後、的確で迅速な利用者への援助には継続された専門教育が必要であり、担当者が学んだ知識や技術は、利用者そして病院へと還元されるということを強調されていました。

また、「こどもの心といのちをみつめて チャイルド・ライフ・スペシャリストの活動」が特別講演されました。チャイルド・ライフ・スペシャリストとは、病気のこどもたちの入院や治療に対する不安とストレスの軽減、心と身体の発達の援助、心理的サポートを目的とした専門家のことです。まだ日本では広く知られていないようですが、アメリカの大学病院などでは存在する職業だそうです。お話によると、図書室は彼らの情報源にもなり、図書室自体がケア材料にもなるそうです。

このような司書の専門性を認めてもらう第一歩として、認定資格制度があるようですが、今回は日本医学図書館協会による「日本医学図書館協会認定資格制度について」が説明されました。

二日間の研究会を終えて、これまでは情報の欲しい人がやってくるのを待っていた図書室が、他部署とのコミュニケーションをとり、利用者のニーズを察知して情報を発信することにより、病院の資質向上に貢献できるということが、少し理解できたように思います。